

令和2年8月25日

グループ法人職員 各位

【会長通達 2020-17】
鳳凰会グループ会長
会長 林瑞香

(重要) 新型コロナウイルス感染症 感染防止対策について

“もうどこに新型コロナ患者さんがいるかわかりませんから、日頃から、油断しないようにして下さい。！”

新型コロナのワクチンのニュースが聞かれます。期待は寄せています。

しかし、ワクチンを接種した人の何割が有効な免疫を獲得したかのデータはまだ出ていません。また、仮に有効なワクチンが年内に出来ても日本全体に行き渡るのは、早くても来年の夏か秋になると思います。

韓国は新型コロナの抗体は数ヶ月で無くなると発表しました。ニューヨーク市も新型コロナ陽性者の抗体は、数ヶ月で8割の人が消えていると発表がありました。

インフルエンザと同じで、新型コロナは長期の免疫が出来ないと思われれます。

仮に有効なワクチンが出来たとしても、インフルエンザのように毎年、新型コロナワクチンの接種が必要という事になりますから、新型コロナに有効な副作用の少ない治療薬が出来ないと、新型コロナが流行する前の生活は出来ないという事になります。

コロナの中等症は、肺炎としては十分に重い状態の画像と思います。新型コロナの中等症は決して軽い病状ではない、と理解して下さい。

イタリアでは新型コロナ患者さんの2ヶ月後の後遺症が87%もあり、頭痛、脱毛、物忘れ、喉の痛み、倦怠感、咳、味覚障害、聴力異常の後遺症を認めたと報告がありました。

また、アメリカでも数ヶ月経っても、後遺症として、倦怠感、息切れ、胸痛、呼吸苦、味覚異常、臭覚異常、脱毛等といった複合型が多いと報告があり、51%の患者さんに何らかの後遺症が残るとの報告もあります。

長期の後遺症は、当たり前ですが、小血管の血栓からくる後遺症ならば、長い期間残ると考えられます。(まだわかりませんが。)

確実な事はまだ何もわかっていない感染症が新型コロナです。

テレビで『新型コロナは、ただの風邪』という医師もたまに見受けられますが、後遺症がここまで多い『風邪』はみたことがなく、まず『ただの風邪』とは思えません。

油断は絶対にしないで下さい。

風邪+血管炎(小血管の血栓症)が新型コロナで、血管炎の場所により後遺症が出ると考えると多彩な後遺症も説明しやすいと考えています。

『若いから死なない』は確かにそうかも知れませんが、『若いから後遺症がない』事はありませんし、人には感染させます。

- 病院での感染は、ロッカールームや食事中のおしゃべり、リハビリでの患者さんとの接近等があげられました。

ロッカールームや食事中の職員間のおしゃべりは止めましょう。

- リハビリを行う時は、いわゆる基本の、サージカルマスク＋フェイスシールド(ゴーグル)をして、出来たら患者さんにもフェイスシールドの着用を促して下さい。

紫外線が強くなり、新型コロナの感染がやや落ち着いたように見えますが、本来、乾燥した涼しい時期に流行が拡大するウイルスが、梅雨や夏に流行が拡大するのですから、秋冬に向けては必ず、さらに流行が拡大すると思います。

また、秋冬に向けてインフルエンザも流行しだします。

風邪にかかると、インフルエンザかコロナかいわゆる風邪かの区別は、検査をしないとわかりません。体調管理は特に気にかけて、風邪をひかないように気をつけて下さい。

また、インフルエンザワクチンは、卵アレルギーのある方以外は、必ず接種して下さい。

職員各位におきましては、医療介護従事者との自覚をさらに強く持ち、責任をもった日常の行動に努めて頂くようお願い致します。

- まず、新型コロナにかからないこと、また新型コロナにかかってしまったら人に移さないように行動する事を常に頭に入れて、行動して下さい。

【新型コロナウイルス感染症 感染防止策】

- ① 密の場所は避けること。(特に居酒屋など飲み屋、パチンコ、カラオケは厳禁。)
- ② 大きな声を出さないこと。(大きな声は遠くまで飛沫が飛びます。)
- ③ 手洗いを徹底すること。
- ④ マスクやフェイスシールド(ゴーグル)を適切に使用すること。
- ⑤ ソーシャルディスタンスの確保を意識すること。
- ⑥ お酒の量を個人で管理すること。(飲みすぎると、必ず声が大きくなります。)
- ⑦ ロッカーームや食事中的お喋りは止めること。
- ⑧ 体調管理に留意し、毎日体温を測定する。発熱がある場合は出勤せず、所属長に連絡後、受診し自宅療養すること。

①～⑧は必ず厳守して下さい。

以上